〔文化財伝承等の取組事例〕

「水引中学校の港六尺踊り伝承活動の取組」

１．学校名	薩摩川内市立水引中学生
２．学年・人数	１～３年　59 人
３．日時・場所	⑴　練習の日時・場所 令和６年４月～５月　水引中学校体育館・校庭 ⑵　発表の日時・場所 令和６年５月12日　　水引小中合同運動会　水引中学校校庭
４．伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能，伝統行事，伝統工芸品について	⑴　名称 みなと六尺棒踊り（みなとろくしゃくぼうおどり） ⑵　由来 港町に伝わる郷土芸能である。鎌倉時代や戦国時代に始まったといわれる。各地で戦乱が相次ぎ，農地荒廃，賦役頻繁，自衛のための武器所有も許されずという有様で農民は，棒で護身するしかなかった。湊地区では昭和 27 年に青年団が踊ったのを最後に長年途絶えていたが，70 歳代の方々が中心となり 50 年ぶりに復活した。現在，保存会の方々が中心となって継承し，毎年６月に新田神社に踊りを奉納している。 ⑶　構成等 ６尺棒を使った「棒踊り」，８人が１組になり，歌者の「お一せ一へ一ろ一…」という歌に合わせ，踊り手が「さ一さ一さ」という掛け声を出しながら，棒を体の上・下部で打ち合わせてたたいたり，棒で地面をたたいたりしながら踊る。
５．文化財伝承・活用の取組において地域との連携や工夫した点等	第１回目の練習時に，保存会の方から「棒踊り」の歴史や由来，保存会の活動等について生徒に説明してもらい，生徒の興味や関心を高めるようにした。また，５月に行った水引小中学校合同運動会では，生徒と棒踊り保存会の人たちが一緒になってみなと六尺棒踊りを披露し，文化財を伝承する意図を内外に示すことができた。生徒は意欲的に練習に取り組み，愛郷心を高めるよい機会となっている。
６．取組の様子（練習状況，発表の場等）	 運動会で披露
７．感想・意見 （参加児童生徒・保護者・保存会・教員等）	【生徒】 ・　最初は難しかったけど，指導者の方が優しく教えてくれたので，すぐに覚えることができました。由来や歴史も教えてもらったのでよかったです。 ・　棒踊りはとても楽しいです。リズムがそろったときや，棒で打ち合うときは，とても気持ちがいいです。来年も頑張りたいです。 【教職員】 ・　地域の方が教えに来てくださることはとてもありがたい。このような連携を通して，愛郷心が湧いてくるのだと思う。棒踊りの指導はもちろんのこと，休憩時間等も地域の方と生徒がコミュニケーションをとっている姿も見られたので，とても価値のある時間だと感じている。 【保存会から】 ・　指導者の高齢化があり，今後の指導が難しい。体力的に厳しいので，練習回数を減らしてほしい。